

2024 年第3号

(2024.2.5)

デジタルノマドの日本誘致に向けた実態調査を実施

デジタルノマドには、よりよく生きるためにノマド生活を選択する「ライフ重視型」と仕事を中心の「ワーク重視型」が存在。日本誘致でキーになるのは「ライフ重視型」か。

株式会社JTB総合研究所(東京都品川区 代表取締役社長執行役員 風間 欣人)は、デジタルノマドの日本誘致に向けた実態調査を実施しました。

デジタルノマドは、2023 年 5 月に観光庁が発表した「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」で人的交流の促進として制度環境整備が掲げられる等、注目されています。しかし、「デジタルノマド」と呼ばれる人たちはどんな人たちなのか、その実態はあまりつかめていません。当社は 2021 年から継続的に、デジタルノマドに関する調査を実施してきました。2023 年度に実施した本海外実地調査では、これまで「場所に縛られず旅するように働く、国際的なリモートワーカー」と一括りにされていたデジタルノマドには2区分あり、その目的によって移動の仕方も、滞在先に求める環境整備も異なることが分かりました。JTB 総合研究所では、今後もデジタルノマドなど新しい旅行者の姿の本質を探る調査を実施していきます。

*これまでの調査内容はこちら (<https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2022/09/digital-nomad/>)

今回の調査からは、次のようなインサイトが得られました。

- 国際的なリモートワーカー(いわゆるデジタルノマド)は、より良く生きるためにノマド生活を選択する「ライフ重視型」と、より良い仕事を求めて移動する「ワーク重視型」が存在。その間でトライアルをしている自分探し層も。
 - ◇ 「ライフ重視型」は、その土地ならではの生活や体験、交流に期待し、気に入った場所での滞在期間は長い。多様なライフスタイルを試すために積極的に移動を行う。
 - ◇ 「ワーク重視型」は、スタートアップのために働きやすい環境を求め、ノマド生活を送るが、働きやすい環境を見つけると定住する傾向にある。
 - ◇ どちらかに属するほど意思が明確にはなっていないものの、ノマド生活に憧れ、自分に合った人生のスタイルを探すためにデジタルノマドのプログラムやイベントに参加している層も一定数存在すると思われる。
- ヨーロッパは「ワーク重視型」が多く、アジア、中央アメリカは生活のしやすさから「ライフ重視型」が多く滞在する傾向。
- 日本の都市は、大都市については平均的な評価であるものの、中都市～小都市の評価は平均以下。地方への誘致を見据える場合、受入環境の底上げが必要である。
- 日本は「安全性」、「インターネット回線の早さ」、「言論の自由」、「ホスピタリティ」などの項目で高評価だが、「ワーク重視型」で重視される「英語力」と「起業のしやすさ」では低評価。アクティビティやナイトライフの充実、多様性への配慮など、「ライフ重視型」で重要視される整備を行うことで、近隣アジア圏にきているリモートワーカーを日本に取り込むことが日本へのデジタルノマド誘致のカギになる。

図1 デジタルノマドの「ライフ重視型」・「ワーク重視型」イメージ

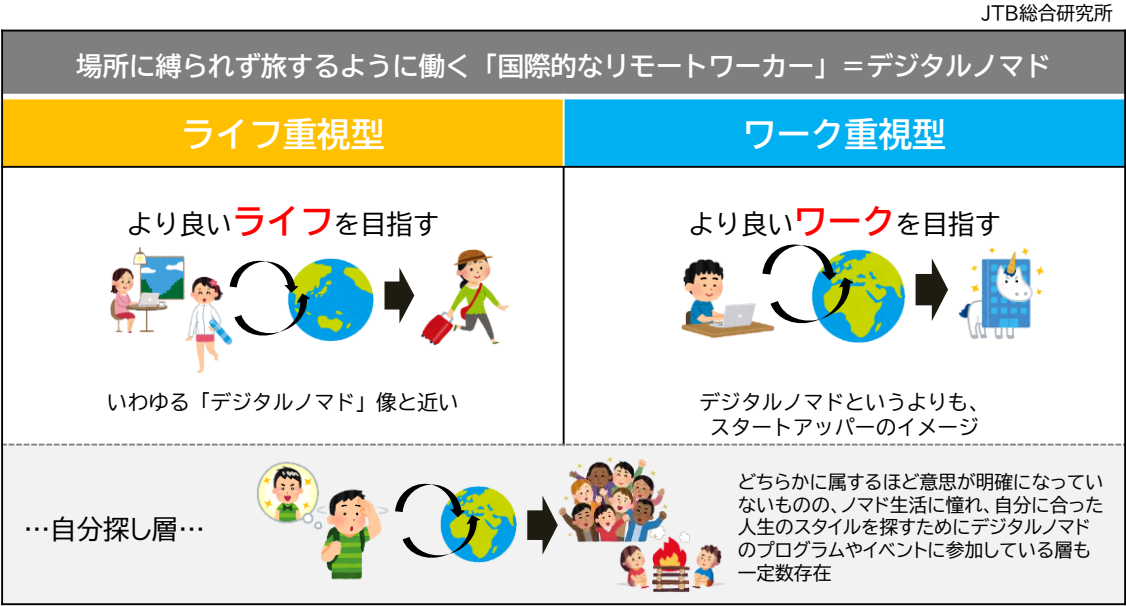


図2 国・地域ごとに異なるデジタルノマドの特性

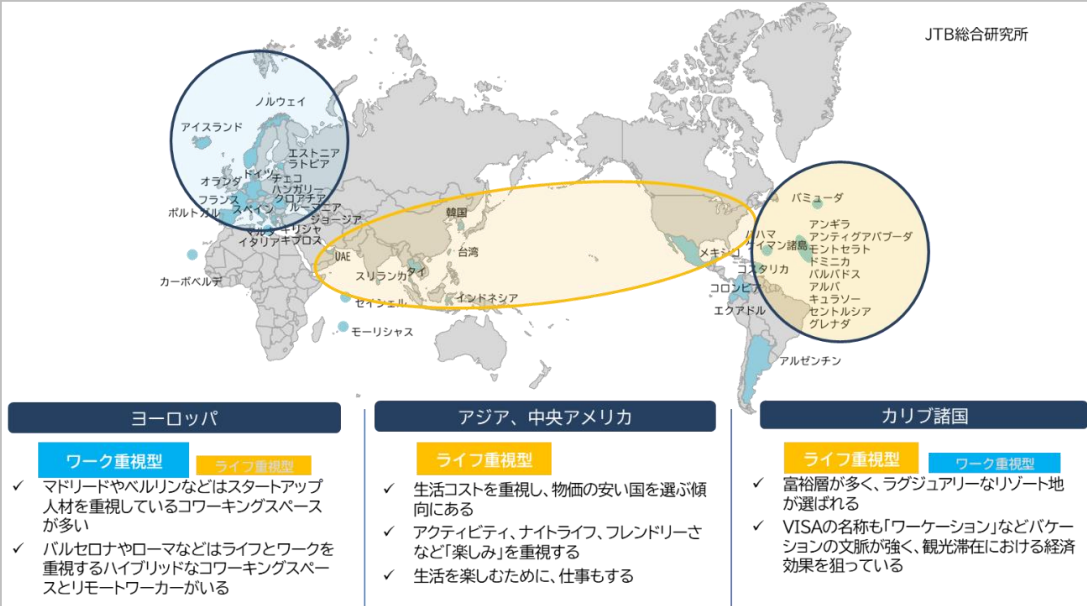


図3 重視される整備と日本誘致における課題

JTB総合研究所

	ライフ重視型	ワーク重視型
重視される環境整備	・ アクティビティやナイトライフの充実 ・ 人に対するフレンドリーさ ・ 宗教、性的マイノリティ、人種に対する偏見のなさ ・ 生活のしやすさ（物価、食事、買い物、気候）	・ 起業のしやすさ ・ 働くことに不自由しない英語力 ・ 街中のフリーWi-Fi
呼びやすい要素	・ アジア圏に多く存在 ・ 飛行機の路線が豊富 ・ リゾート地を有する ・ 四季折々の楽しみがある ・ 食の安全、治安の良さ ・ 言論の自由	・ 企業が多い ・ 大都市圏の評価が高い ・ 独自の文化 ・ 教育水準が高い ・ 宿泊施設、飲食店が充実
呼びにくい要素	・ 他国と比べてフレンドリーさに欠ける ・ 性的マイノリティなどへの偏見 ・ 生活コストが高い ・ 長期滞在VISAがない ・ リゾート地などの受入態勢が整っていない ・ ファシリテーター、コミュニケーターが存在しない ・ デジタルノマド向けのプログラムがない	・ 英語力の低さ ・ 多言語対応のコワーキングスペースがない ・ ファシリテーター、コミュニケーターが存在しない ・ マッチングプログラムがない ・ 労働用のVISAがない、就労が難しい ・ 起業のしにくさ

表1 日本の都市の全体スコア

都市名	世界順位	スコア	偏差値
東京	32	85	72.76
那覇	184	63	56.86
沖縄市	212	61	55.41
大阪	307	59	53.96
京都	332	58	53.24
横浜	563	56	51.79
広島	709	54	50.35
仙台	723	53	49.62
名古屋	737	53	49.62
長崎	785	53	49.62
神戸	842	52	48.90
札幌	905	51	48.18
福岡	919	51	48.18
北九州	1010	50	47.46
鹿児島	1065	49	46.73
名護	1117	48	46.01
宇都	1126	47	45.29
対馬	1166	46	44.56
神山	1204	45	43.84
浜松	1247	42	41.67
岡山	1286	35	36.61

出典：2023年12月25日「Nomadslit」よりJTB総合研究所作成

＊本調査の詳細、事業等でのご相談はフォームよりお問い合わせください。

【調査概要】

（海外実地調査）

インドネシア（バリ島・チャングー、ハノイ）、スペイン（バルセロナ、マドリード）、ドイツ（ベルリン）、イタリア（ローマ）等のコワーキングスペースを視察し、利用者やスタッフへのインタビュー調査を実施。

選定：日本から比較的近いリゾート地でデジタルノマドの人気コワーキングスペースがある、インドネシア、ヨーロッパで「スペイン企業家国家戦略」としてデジタルノマド VISA を導入したスペイン（バルセロナ、マドリード）、2012 年頃よりスタートアップ企業が集まり出したベルリン、デジタルノマドコミュニティサイト CoWorker で世界で最も高い評価を得たコワーキングスペースがあるローマを選定。

調査時期：2023 年10月

（デスク調査）

国際的リモートワーカーの情報発信サイト「Nomadlist」の分析を行い、人気のディステイネーション項目の整理を実施

【調査担当者】

主任研究員 勝野 裕子

主任研究員 Temesgen (Tom) Assefa

【お問い合わせ】

株式会社 JTB 総合研究所 経営企画部 広報担当

問合せフォーム <https://www.tourism.jp/contact/>